

建設功労大臣表彰

海外での事業展開に注力

志鷹新樹 県建設業協会常任理事



16年度の建設事業関係功労国土交通大臣表彰に、丸新志鷹建設社長で富山県建設業協会常任理事の志鷹新樹氏が選ばれた。長年におたり建設業に精励する

とともに、関係団体の役員として業界の発展に寄与してきたことが認められた。「長年、建設業協会に携わってきたことが評価されたんだと思う。もちろん

周囲の支えがあったからこそ」と受賞を謙虚に受け止める。これまでを振り返り、1996年に新潟

県と長野県境で起きた蒲原次土石流災害を機に設立した「砂防関係工事現場代理人の会」の富山県での初会合開催に尽力したことや、北陸建設青年会議所会長や全国建設青年会議所会長の務めたことが印象に残っているとい

「若い人が夢持てる業界に」

丸新志鷹建設では、委員長の経営改革推進委員長、林務委員長といった要職に就き、県内建設業界の発展に汗を流してきた。

大地震の被害を受けたネパールの復旧にも奔走。「これから約400億円にも及ぶ復興事業が始まる。橋梁や道路、病院、学校など様々なで、弊社の技術力をもって復興に役立ちたい」と、今後も海外での事業展開に力を注ぐ。地方の中小建設業者でありながら、海外で成功を収める経営手腕

「このままでは技術者がいなくなり、後継者も育たない。各地域に建設業者を残していくかないと、国土保全ができなくなってしまう」と将来を憂う。担い手不足には「収入も含めて、若い人が夢を持てるような業界にならないければいけないし、土木はおもしろい」と思ってもらえる取り組みが必要だ」と力を込める。

92年にネパール支店を開設。以来、回国政府発注の水路工事や小水力発電所改修、ブータン王国政府発注の道路工事など大型工事を次々と受注。ことしもブータン王国政府発注の都市計画工事など2件を受注済みだ。昨年、

に、全国から注目が集まっている。建設業界の現状については「担い手3法の成立で、労務単価の大幅な引き上げなど一定の成果が見られた。一方で、担い手不足と公共事業予算の不安定さが大きな課題」と指摘。

したが、しんき 1954年、62歳。日本大学理工学部卒。98年に丸新志鷹建設社長。立山町建設業協会会長、立山山麓森林組合長、立山山麓防災安理事、立山山麓防災安全対策協議会会長など歴任。趣味は登山、読書。